



「輝け！橘っ子」通信

橘小学校ホームページのQRコードです。

学校教育目標「ともに生きる力としなやかに伸びる力をもち、たくましく夢を追求する児童の育成」
めざす学校「笑顔・あいさつ・思いやりがあふれる楽しい学校」

三連休明け、インフルエンザ等に感染した子どもたちが増えていないか心配しておりましたが、幸いにも流行の傾向は見られず、欠席していた子どもたちも元気に登校してきました。十分な睡眠やバランスのとれた食生活、マスクの着用など、ご家庭でも感染症対策をしてくださっているおかげです。ありがとうございます。学校でも引き続き、手洗い・うがいの励行、こまめな換気を徹底してまいります。99

子どもたちは学習のまとめの段階に入りました。1年間の学習を振り返り、2月の授業参観で発表する準備をしている学年もあります。2年生は、昨年12月から始めた九九検定の大詰めに入っています。毎日校長室を訪れては、上がり九九、下がり九九、往復九九に挑戦し、合格すると印をもらうのですが、粘り強く努力する姿に感心させられます。全員合格まで互いに励まし合ってがんばってほしいと思います。どの学年も、その学年で確実に身に付けておかなければならない基礎・基本事項があります。6年生は残り37日で、1から5年生は残り43日でしっかり復習し、自信をもって進学・進級の春を迎えられるようにしていきたいと思ひます。

地震・火災の避難訓練を実施しました！

1月17日(金)には、地震・火災の避難訓練を実施しました。30年前の1995年1月17日、午前5時46分、淡路島北部を震源として、マグニチュード7.3の地震が起き、壊れた建物の下敷きになったり、火災に巻き込まれたりして、6,434人の方が亡くなりました。大都市で起きた直下型地震が引き起こした阪神・淡路大震災の被害はすさまじく、これを機会に、建物の耐震基準が見直されたり、自治体の防災施策が強化されたりしてきました。学校においても建物の耐震化、校舎内のロッカー等の固定化など、できるかぎりの対策が進められてきました。しかし、最も大事な一人一人が自分の命を自分で守る行動がとれることです。避難訓練もこの目的のもとに、年に数回実施しています。今回は、大きな地震に引き続き、実験をしていた理科室が火事になった、という想定で実施しました。子どもたちは、地震を知らせる校内放送を聞き、素早く机の下にもぐって身を守り、避難開始の放送があると素早く避難経路を通して運動場に避難しました。火事も発生しているということで、口と鼻をハンカチで押さえ、頭を教科書などで守り、黙って素早く避難できていました。実際に、大きな地震が起きたときは、大きな破壊音が続く、放送が聞こえないかもしれません。校内放送が使えないかもしれません。休み時間や登下校の時間に地震が発生するかもしれません。自分で考え、判断し、行動するしかありません。今後も、様々な状況を想定した訓練を重ね、防災学習を実施し、子どもたちにどんな災害をも生き抜く力を育てていきたいと思ひます。



机の下で身を守る子どもたち。



頭を守りながら校舎の外へ。



慌てず、整然と避難する子どもたち。



運動場に出たら走って避難。

東日本大震災語り部 LIVEに参加しました！

1月14日(火)、15日(水)3~6年生の子どもたちが「JRC オンライン語り部 LIVE2024」(日本赤十字社宮城県支部主催)に参加しました。東日本大震災で被災した方々の体験について直接お話を聞き、子どもたちが自らの命を守る知識を高めることを目的としたプログラムです。橘小学校ではここ数年、継続してこの語り部 LIVEに参加しています。

14日(火)の語り部さんは、宮城県石巻市の佐藤美香さん。2011年3月11日、通園していた幼稚園の送迎バスが津波にのまれ、火災に巻き込まれたことで、当時6歳だった長女の愛梨さんを亡くされました。悲しみに泣き崩れた日々の中で、「愛梨の命を無駄にしたくない」との思いから、生前の愛梨さんの日常の姿を盛り込んだ「愛梨ちゃんからの命のメッセージ」というタイトルの紙芝居を作成されたそうです。3・4年生の子どもたちは、「『いってきます』と『ただいま』は必ずセットでなくては行けない。命を大切にしてほしい。」との佐藤さんからのメッセージに真剣に聞き入っていました。

15日(水)の語り部さんは、福島県富岡町出身の秋元菜々美さん。中学1年生の時、福島第一原発事故により自宅からの避難を余儀なくされました。自宅のあった場所は2023年に避難指示解除されて住める場所になったものの、余りにも大きく変わってしまったふるさとを目の当たりにし、当たり前の日々は当たり前ではないことを伝え、原発被災地がこれからどんな社会を目指していけるかを問い続けていきたいと、語り部さんとして活動されているそうです。原発事故被災地の方の話聞くのは初めての5・6年生でしたが、突然の災害で友達・学校・ふるさとを奪われた悲しみを感じ取っていました。



佐藤さんの話を聞く3・4年生。



愛梨さんの紙芝居は悲しすぎました。



秋元さんの話を聞く5・6年生。



ふるさとを奪われた秋元さんの悲しみや怒りが伝わってきました。